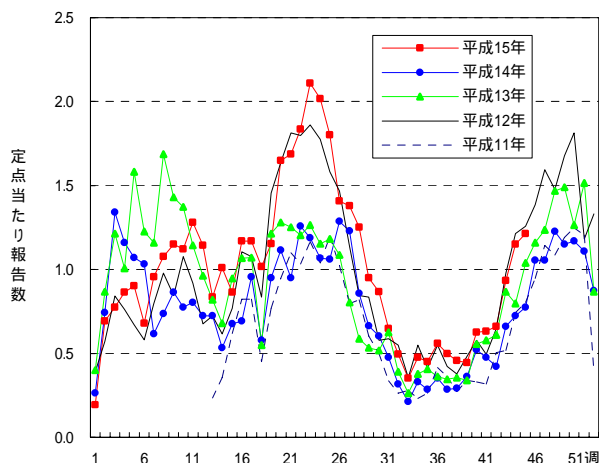
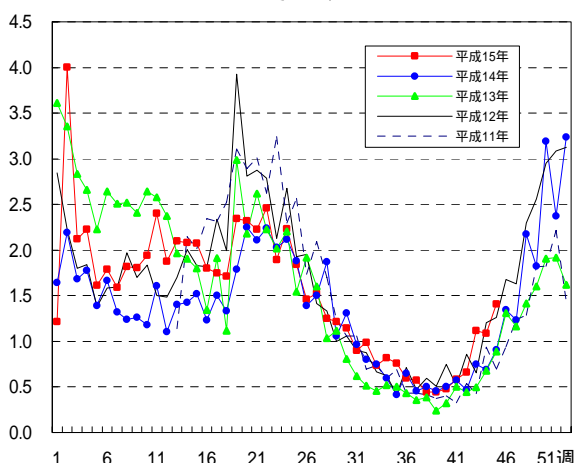


流行状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



水痘



疾患名	前週	今週	備考
<u>感染性胃腸炎</u>	3.2 ↑	4.2 ↑	細菌あるいはウイルスなどの感染性病原体による嘔吐、下痢症
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>	1.1 ↑	1.2 ↑	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症
<u>水痘</u>	1.1 →	1.4 ↑	「みずぼうそう」とも呼ばれ、ウイルスが原因で発生する人から人につうつる感染症
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.85 ↑	0.38 ↓	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 3 定点からコメントでの患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
↓ 減少	→ 横ばい	↑ 増加

感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

病原体検出情報

平成15年3月1日以降に発症した患者から検出されたウイルスの検出状況です。10月31日現在、表に示したように前年度と同一の8疾患を対象に、285名からの検体の検査を実施しています。そのうち29名からの検体については、現在なお検査中です。

表 平成15年度疾患別ウイルス検出状況(～10月)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	急性脳炎	インフルエンザ
患者数	29	65	36	11	47	87	7	3
CV-A5	-	-	1	-	-	-	-	-
CV-A6	-	-	14	-	-	-	-	-
CV-A10	-	-	1	-	-	-	-	-
CV-A12	-	-	3	-	-	-	-	-
CV-A16	-	17	2	-	-	-	-	-
EV-71	-	14	-	-	-	6	-	-
CV-B2	-	-	-	-	-	1	-	-
CV-B3	-	-	1	-	-	-	-	-
CV-B4	-	-	-	-	-	-	-	-
EC-6	-	-	-	-	-	2	-	-
EC-18	1	-	-	-	-	9	-	-
EC-30	-	-	-	-	-	2	-	-
Flu.A(H3)	-	-	-	-	-	-	-	1
Rota A	3	-	-	-	-	-	-	-
NV G2	6	-	-	-	-	-	-	-
Adeno 1	-	1	-	-	-	-	-	-
Adeno 3	1	-	-	7	5	-	-	-
Adeno 5	-	1	-	-	-	-	-	-
Adeno 37	-	-	-	-	6	-	-	-
HSV-1	-	-	1	-	-	-	-	-
Mumpus	-	-	-	-	-	2	-	-
検査中	-	6	5	1	1	5	3	-
陰性	18	26	8	3	35	60	4	2
CV-A: コクサッキーウイルスA型 CV-B: コクサッキーウイルスB型 Flu.A(H3): A香港型インフルエンザ Rota A: A群ロタウイルス NV: ノロウイルス Adeno: アデノウイルス HSV: 単純ヘルペスウイルス Mumpus: 流行性耳下腺炎ウイルス								

詳しくは衛生研究所ホームページの**病原体検出情報**を御覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/microbiol5.html>)

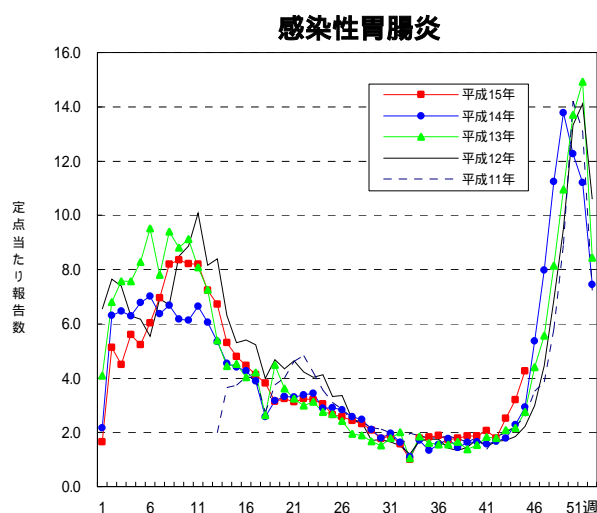
トピックス

海外帰国者から B 型インフルエンザウイルス分離される

2003 年（平成 15 年）10 月 10 日から 25 日にかけてフィリピンに渡航し、帰国日の 10 月 25 日にインフルエンザ様症状を発症した 45 歳の男性から、B 型インフルエンザウイルスが分離されました。発症後の平成 15 年第 44, 45 週（10 月 27 - 11 月 9 日）には愛知県下ではインフルエンザ患者発生の報告はなく、本ウイルスによる地域流行等は観察されておられません。

感染性胃腸炎（特に、ノロウイルス感染症）について

【平成 15 年 11 月 13 日現在】



11 月 5 日付けで、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律及び検疫法の一部を改正する法律」が施行され、感染性胃腸炎は旧 4 類感染症から新五類感染症（定点把握対象）に再分類されました（なお、対応措置としては、旧 4 類感染症と同じです）。

感染性胃腸炎は病原性大腸菌やサルモネラなどの細菌、それにロタウイルスや小型球形ウイルス*（SRSV）などのウイルスによって引き起こされる胃腸の疾患で、一年を通じて発症していますが、過去のデータからすると、例年細菌によるものは夏場に集中し、ウイルスによるものは毎年秋から冬にかけて流行が認められます。後者のウイルスによるものの内、SRSV による流行は 12 月のピークを形成し、その後春のピークはロタウイルスによって形成されます。

* 昨年末の第 50 週（平成 14 年 12 月 9 日～15 日）の週報でもお伝えしましたが、小型球形ウイルス（SRSV）の主要なウイルスであるノーウォーク様ウイルス（NLV）は、平成 14 年 8 月にパリで開かれた国際ウイルス学会の折にその分類委員会によって、Norovirus（NV：ノロウイルス）という新たな属名で呼ぶことが決定されました。しかしながら、我が国の厚生労働省の定義によるウイルス性食中毒の病因物質としては「SRSV」または「その他のウイルス」に分類することとなっておりましたが、平成 15 年 8

月 29 日付、厚生労働省食品安全部長通知（食安第 0829008 号）で「S R S V」が「ノロウイルス」に改められました（なお、電子顕微鏡による検査で、S R S V の形態は示すもののノロウイルスと同定できない場合、又はサポウイルス（Sapovirus：サッポロ様ウイルスの新しい属名）及びアストロウイルスが検出された場合には、「ノロウイルス以外の S R S V」、又は同定されたウイルス名を記載し、「その他のウイルス」に分類することとなっています）。

現在の状況

今年後半の感染性胃腸炎患者の県全体の定点あたり報告数は、第 30 週（7 月 21 日～27 日）～第 42 週（10 月 13 日～10 月 19 日）の期間は 2.0 程度で推移してきましたが、第 43 週（10 月 20 日～10 月 26 日）に 2.5、第 44 週（10 月 27 日～11 月 2 日）に 3.2 と若干の増加をみました。第 45 週（11 月 3 日～11 月 9 日）現在の定点あたりの患者報告数は 4.3 と、第 44 週よりさらに増加しています。なお、第 45 週現在、県内において警報の発令されている保健所管轄地域はありません。しかしながら例年、感染性胃腸炎患者の報告数は第 43 週を過ぎたあたりから急激に増加し始め、年末にかけてピークを迎えるため、特に医療関係者におかれましては患者の増加に注意をしてくださるようお願いいたします。

以下に、感染性胃腸炎の原因の 1 つで、例年 12 月にピークを迎えるノロウイルス（N V）感染症の特徴を簡単にまとめました。

冬季に流行する胃腸カゼ、嘔吐症の集団発生（ノロウイルス感染症）

一般には良く知られていませんが、冬にも食中毒が流行し、その原因の多くはノロウイルス（N V）とされています。N V はウイルス性食中毒の主要な原因ウイルスで、生カキの喫食に起因する食中毒事例がよく知られています。しかし、初冬から春先にかけて（11 月～5 月）、保育園や学校などの集団生活をおくる場所では、食中毒として扱うよりも感染症（ヒトからヒトへの感染や汚染された器具を介して感染する）として扱った方がよいような N V による急性胃腸炎の集団発生が起きていることがわかってきました。このような事例の発生時期がインフルエンザの流行時期とちょうど重なっていることから、従来はこのような事例の多くは集団かぜ、胃腸カゼ、あるいは嘔吐症の集団発生として取り扱われてきていたようです。

臨床症状

N V による急性胃腸炎の主な臨床症状は、下痢、嘔吐、腹痛や発熱です。臨床症状から N V 感染とインフルエンザウイルス感染を鑑別することは困難ですから、病因調査にはウイルス学的検査が必要となります。N V は腸管で、インフルエンザウイルスは呼吸器で増殖しますので、N V の検査には患者の糞便が、インフルエンザの検査には咽頭ぬぐい液またはうがい液が必要となります。

集団発生例

愛知県では、平成 14 年度にウイルス性食中毒または有症苦情として取り扱われた嘔吐・下痢症の 24 事例について N V の検出検査を実施したところ、20 事例の 112 名（患者 101/130 と調理従事者 11/43）から N V が検出されました。しかしながら、今年度の秋以降～現在（11 月 13 日）までの

ところ、県内での大きな流行は報告されていません。

また、海外でのN V感染症の流行として、平成13年にはイギリスで病院内感染が大流行し、その原因として空気感染や接触感染が考えられました。そこで、流行拡大を防止する為に複数の病院では病棟が閉鎖されたほどです。さらに平成14年には、米国でN Vによる感染性腸炎の流行がディズニー・マジック号を含む豪華客船（クルーズ船）で次々と発生し、患者総数1,200名を超すなど、社会的にも大きな注目を集めました。米国疾病管理センター（CDC）の勧告に従った消毒の後も患者発生が続くなど、その原因は完全に究明されていませんが、空気感染を含む人からの感染、ドアの取っ手等を介した感染も考えられています。

今年も10月に、ギリシャへ向かっていた英国のクルーズ客船でのN V感染症の流行が報告されており、数百名の患者が発生したと、ギリシャの公衆衛生当局などから発表されています。

感染経路および予防方法

N Vは経口感染するウイルスです。しかしながら、愛知県での事例では観察されていませんが、感染患児の嘔吐物を長時間放置したためN Vが埃と共に空気中に漂い、エアゾルによる空気感染が示唆された事例、嘔吐物の処理が不十分で教室周辺の環境汚染がN Vの感染拡大を招いた事例、あるいは胃腸炎症状を呈していた児童が給食当番を努めたことに起因する急性胃腸炎の集団発生事例などが他府県からは報告されています。すなわち、上に述べた様に、N V感染は食中毒としてだけでなく、感染症として発生している様です。

N Vが口に入るまでの感染経路には接触が原因であったり、エアゾールが原因であったり等、多様な形態が想定されますので、集団発生の原因究明にはウイルス学的検査とともに詳細な疫学情報の収集が必要となります。

特に食品取り扱い者は手洗いを励行し、食品の取り扱いには注意してください。また、胃腸炎患者の吐物からもノロウイルスが検出されており、吐物から発生した飛沫などによる空気感染、ドアの取っ手等を介した感染も考えられるとして、ウガイや手洗いの励行が感染予防に重要だと指摘されています。

消毒

嘔吐物にN Vが含まれることがあるので、嘔吐物は感染性の廃棄物として処理する必要があります。また、処理に使用した用具や嘔吐物の跡も消毒が必要です。消毒に関して注意しなければならないのは、N Vは比較的消毒薬に強く70%アルコールでは完全に消毒することはできません。従って0.25%～1%の次亜塩素酸ソーダで処理することが必要となります。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌 O1 5歳男、5歳女
病原性大腸菌 O25 5歳男
病原性大腸菌 O18 3歳男
カンピロバクター 0歳女
黄色ブドウ球菌 5歳男、8歳女
ロタウイルス 子供9名、大人2名
相変わらず細菌性の胃腸炎が多いです。
パラインフルエンザ増えています。

【尾西市 城後小児科】

一保育園で水痘流行
4歳女 ヘルペス性歯肉口内炎

【一宮市 後藤小児科医院】

3歳女 水痘、ムンプス同時罹患あり

【一宮市 あさのこどもクリニック】

ノロウイルスと思われる胃腸炎 はやっています。男児の方が受診が多い様です。

咽頭の発赤を伴う症例が多いです。
手足口病がまだ続いています。

【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎、溶連菌感染症が増加しています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

溶連菌が目立っています。

ウイルス性胃腸炎が目立ってきました。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

6歳男、40歳男 マイコプラズマ肺炎

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

マイコプラズマ肺炎 4歳男、9歳女
カンピロバクター腸炎 6歳男
病原大腸菌 O86a 2歳女
溶連菌感染症が多く見られます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

相変わらずマイコプラズマ感染症が多くみられています。

今週もアデノウイルス感染症数例ありました（全てアデノチェックで陽性でした）。

その他、伝染性紅斑、突発疹、流行性耳下腺炎等散発が目立った流行はありませんでした。

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

咽頭結膜熱、溶連菌感染症増えています。
水痘続いています。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

水痘 1 例

伝染性単核球症 1 例ありました。

【春日井市 かがわ北病院】

水痘と流行性耳下腺炎流行

ウイルス性と思われる胃腸炎あり

【小牧市 小牧市民病院】

水痘の流行がみられます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

マイコプラズマ肺炎 9 歳男

【南知多町 医療法人大岩医院】

ヘルペス歯肉炎 2 歳女、1 歳男

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

サルモネラ 5 歳女

【東海市 東海市民病院】

西三河地区

3 歳女、7 歳女、8 歳男女 Strep A (+) (溶連菌検査)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

10 歳男 異型肺炎

【岡崎市 医療法人深田小児科】

9 歳男 病原性大腸菌 O18 (+)

【岡崎市 花田こどもクリニック】

1 歳男 病原性大腸菌 O1 VT (-)

1 歳男 イムノカード ST アデノウイルス (+)

2 歳男 病原性大腸菌 O153 VT (-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

7 歳女 病原性大腸菌 O1

11 カ月女 病原大腸菌 O153、病原大腸菌 O25

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

ムンプス 9 名

水痘 7 名

アデノチェック陽性 2 名

【知立市 宮谷クリニック】

10 歳女 帯状疱疹

3 歳女 病原性大腸菌 O111 VT (-)

6 歳女 病原性大腸菌 O6 VT (-)

16 歳男 病原性大腸菌 O18 VT (-)

【幸田町 とみた小児科】

1 歳女 ヘルペス口内炎

嘔吐が増加

【西尾市 やすい小児科】

東三河地区

サルモネラ O4 感染 3 名 全て保育園児

【豊橋市 あずまだこどもクリニック】

水痘が広がっているも発症例は多くないです。

【田原市 かわせ小児科】

1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	豊橋市	2	男	10 / 29	10 / 30	11 / 4	0111 VT1(+) VT2(+)	

全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

アメーバ赤痢 1例 (推定感染地域：国内)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

日が短くなって仕事を終って外に出てみるともう暗くなっていて、パソコンの画面を見続けていた眼には病棟の明かりが眩しくて、驚いたり年齢を感じたりしています。いつも貴重な情報を有難うございます。10月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは下気道感染症（急性気管支炎、急性肺炎）が増加、ウイルス性胃腸炎も増加傾向でアデノウイルスによると思われる急性咽頭炎・扁桃炎が尾を引くように続き、無菌性髄膜炎とマイコプラズマ肺炎が多く、下気道感染症の増加に伴い喘息発作（ないし喘息性気管支炎）が目立つ、第二日赤松山先生からは起炎菌不明の急性気管支（肺）炎の入院例が多い、城北病院渡辺先生からは外来受診者は多くなく、発熱患者は少ないがアデノチェック陽性児散見、この1 - 2週間嘔吐を主訴とする患者が受診し増加のきざし（？）、第二日赤岩佐先生からは目立つものは特になく、マイコプラズマ肺炎散見、千種区今枝先生からは久しぶりに水痘1例、感染性胃腸炎4例（うち1歳女児は前日プールに入った）、三菱病院入山先生からは感染性腸炎7 - 8例（カンピロバクタ - 2例で入院1例、サルモネラの1例も入院、病原性大腸菌O1、O6など）、マイコを含む肺炎5 - 6例、中京病院柴田先生からは急性腸炎増加、労災病院山田先生からは水痘と胃腸炎が目立ち、アレルギー性紫斑病やブ菌性火傷様皮膚症候群、マイコプラズマ肺炎目立った、大同病院水野先生からはとにかく今年は喘息が多く、マイコプラズマ肺炎や乳児の細気管支炎も増加、ノロウイルス（？）の腹痛、嘔吐が多く、水痘流行、肺炎や気管支喘息で酸素吸入を要する児が目立ち、突発疹で熱性痙攣、脳症の児ありとのお手紙をいただきました。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌感染症、感染性胃腸炎、水痘がそれぞれ散発、手足口病散見、伝染性紅斑1例、江南市昭和病院小児科からはムンプス、水痘、感染性胃腸炎、喘息、マイコプラズマ肺炎、常滑市民病院上田先生からは溶連菌感染症、ウイルス性胃腸炎、ムンプス髄膜炎、マイコプラズマ肺炎が目立った、市立半田病院小児科からは特に目立つ感染症はないが喘息が多く、マイコプラズマありとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：知立市近藤先生からはワクチン歴のない児の百日咳1例、ムンプスが小流行（幼稚園、保育所）、感染性下痢症がやや多く、マイコプラズマ肺炎の同胞例あり、刈谷市田和先生からはムンプスが少し目立ち、感冒症状を伴って、または突然の嘔吐ではじまる嘔吐症が少し目立つ、豊橋市長屋先生からは感冒が目立つ、同宮澤先生からは少数だが手足口病が再び目立ちはじめ、1例は7月にも罹患、他に細菌性腸炎が目立つとのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

2003年10月10日(78巻41号)

オンコセルカ症(注:回旋糸状虫症。寄生虫症でフィラリアの一つ。熱帯アフリカや中南米に分布し、皮下結節や全身リンパ節腫大を伴って増殖した原虫は流血から眼に感染、失明する。ブヨが媒介しブヨの生息する河ぞいに発生するのでリバ - ブラインドネスと呼ばれ集落の成人の殆どが盲目となるなど恐れられている)。現在常在しているのは6ヵ国(ブラジル、コロンビア、エクアドル、グアテマラ、メキシコ、ベネズエラ)。作戦として85%を目標に常在地区住民を対象とした薬剤投与が実施されている。11月16日 - 19日、ブラジルのマナウスでWHO / WHOアメリカ地区(PAHO)など国際機関関係者の会議が開かれた。PAHO地区の状況は、常在6ヵ国で感染リスクを有するもの503,285名、投薬対象者433,099名、投薬地区1,950地区。薬剤投与の普及率は1999年にはPAHO全域で48%、ブラジル33%、グアテマラ24%、ベネズエラ14%と低い国が多かったが、2002年にはPAHO全域で86%、ベネズエラの66%をのぞき残り5ヵ国は90%以上となった。オンコセルカ症根絶を目的とした定期的投薬が継続、投薬参加率が今後上昇するよう啓蒙活動が実施されている。

10月3日 - 9日届出。コレラ:コンゴ、リベリア、インド。黄熱:カメル - ン。

03年10月17日(78巻42号)

感染症集団発生: リベリアのコレラ。首都モンロビアでの発生が注目される。10月5日で本年年始から始まった流行で患者数22,604、罹患死亡率は1%以下、多数の非政府組織が各地区で経口輸液センターを開設。一方、もう一つ注目されるのは細菌性赤痢と思われる血便の患者の増加である。03年8月18日以降1,123例の発症。罹患死亡率が0.18%と低いのが従来途上国における赤痢集団発生と異なっている。細菌学的検査は進行中なので詳細不明。西アフリカのポリオ。本年に入ってブルキナファソで1例、ガ - ナで6例、ト - ゴで1例の1型野生株によるポリオ発生。型内検索ではニジェ - ル南部とナイジェリア北部に常在する1型野生株由来と判明。10月22日からこれら3ヵ国とベニン、チャド、カメル - ン、ニジェ - ルで5歳以下小児に生ポリオワクチンの全国一斉接種開始。ブルキナファソの黄熱。10月10日、WHOに同国南西部、象牙海岸国境地区で黄熱の集団発生報告あり、ウイルス検査で確認。生後6ヵ月以上の発生地区居住者にワクチン緊急接種。サ - ベイランス進行中。

B型肝炎ワクチンの小児に対する一斉接種：世界的状況。1992年、WHOはB型肝炎ワクチン(HBV)を小児の定期接種計画に入れるのを97年を目標とした。本報は現状のまとめである。03年5月でWHO参加国の79%が小児にHBV接種、6カ国はさらに青年にも接種している(世界地図あり)。得られた報告では76カ国(55%)で出生直後にHBVを接種、うち一般住民のHBs抗原陽性率が高い(8%以上)国では、64カ国(72%)が新生児接種を実施ないし予定している。人口の多い中国、インドやインドネシアでは世界予防接種協力計画会議とワクチン資金機構が支援中。HBVの3回接種率が80%を超えた国は91年調査開始当時5%であったのが01年には32%と増加している。注：世界的には地域の実情に応じ接種方式が採用されている。一般人口当りでHBs抗原陽性率の高い(8%以上)地区、中等度(2-7%)地区、低い(2%未満)地区と分類されていて、抗体陽性率の低い日本や英国、北欧諸国などでは一斉接種はせず接種対象者を検査所見から限定している。

SARS：伝播経路。03年9月、SARS専門家会議は香港における集合住宅でのSARS集団発生の要因として配管工事の不備も考えられるとして、他の感染症も含めて配管工事や維持管理に注意するよう勧告している。

10月3日 - 9日届出。コレラ：コンゴ、リベリア、マリ。

第43週(15年10月20日～10月26日)の4類感染症（全国）

小児科定点報告疾患

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第29週をピークとし、その後は週により緩急はあるものの減少し続けていたが、今週は微増した。過去10年間の当該週と比較して相変わらず第16週から最高の値を持続しており、第43週までの累積定点当たり報告数の過去10年間の平均と比較すると、2.8倍を示す大きな流行となっている。都道府県別では、鳥取県（0.7）、愛媛県（0.5）、大分県（0.5）が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は第34週から増加傾向が認められており、本週も増加した。過去5年間の同時期（前週、当該週、翌週）と比較してやや多く（前ページグラフ参照）、都道府県別では鳥取県（3.6）、山形県（2.4）、宮崎県（1.6）が多い（「注目すべき感染症」参照）。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では福井県（8.8）、栃木県（8.0）が多い。水痘の定点当たり報告数は第41週から増加傾向が認められており、本週も過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では山形県（2.2）、群馬県（1.8）、北海道（1.7）が多い（「注目すべき感染症」参照）。

基幹定点報告疾患

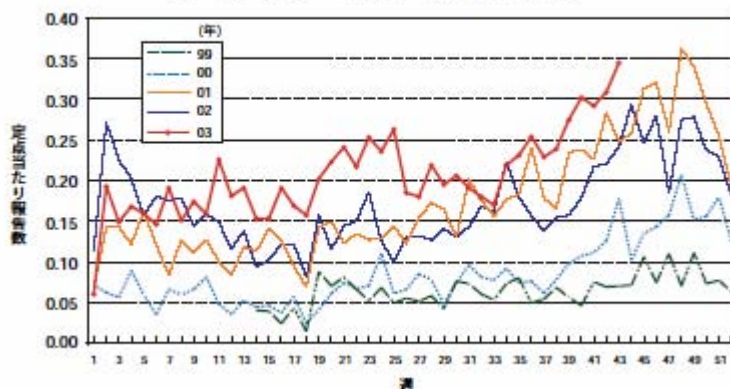
マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加して0.34で、都道府県別では岡山県（3.0）、鳥取県（1.6）、茨城県（1.2）、佐賀県（1.2）が多い（「注目すべき感染症」参照）。

注目すべき感染症

マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は、1999年4月のいわゆる「感染症法」施行以降の発生動向調査では4類感染症定点把握疾患となり、独立した疾患として、全国約500カ所の基幹定点医療機関から報告されている。本疾患は従来4年周期で、オリンピックのある年に流行を繰り返してきたが、近年この傾向は崩れつつある。年間での推移をみると、晩秋から冬にかけて増加がみられている。図に感染症法施行以来の週別の定点当たり報告数を示す。2003年の報告数は過去の報告より高いレベルで推移している。今年は5月下旬～6月上旬に報告数が多かったが、ここ数週間でも全体として報告数は漸増傾向にある。年齢群別の報告数では1～4歳が最も多く、続いて5～9歳が多い。今冬のSARS対策としても、鑑別診断としてインフルエンザやマイコプラズマ肺炎などの呼吸器感染症は重要であり、可能な限り病原体を把握することが望まれる。

図. マイコプラズマ肺炎の年別週別発生状況



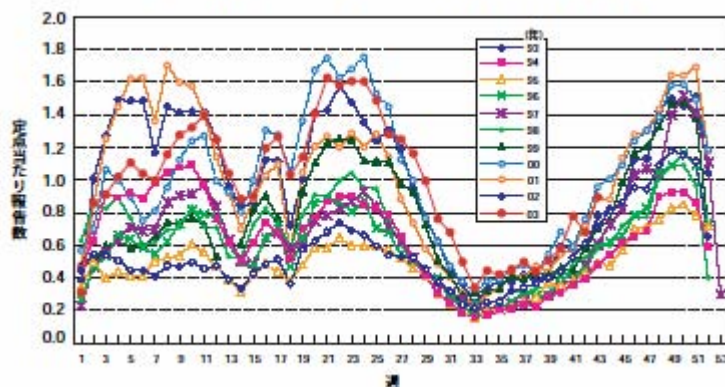
水痘

水痘帯状疱疹ウイルスによって起こる感染症で、潜伏期は2週間程度（10～21日）である。発疹は全身性で掻痒を伴い、紅斑、丘疹を経て短時間で水疱となり、痂皮化する。数日にわたり新しい発疹が次々と出現するので、急性期には紅斑、丘疹、水疱、痂皮のそれぞれの段階の発疹が混在することが特徴である。臨床経過は一般的に軽症で、倦怠感、掻痒感、38℃前後の発熱が2～3日間続く程度であることが大半である。しかし、成人ではより重症になり、合併症の頻度も高い。通常呼吸器症状や胃腸症状を伴うことはない。合併症の危険性は年齢により異なり、健康な小児ではあまりみられないが、15歳以上と1歳以下では高くなる。治療としては通常、石炭酸亜鉛華リニメント（カチリ）などの外用が行われる。抗ウイルス剤のアシクロビル（ACV）は、重症水痘、および水痘の重症化が容易に予測される免疫不全者などでは第一選択薬剤となる。健康者の水痘についても、ACVの経口投与は症状を軽症化させるのに有効であると考えられているが、全ての水痘患者に対して投与する必要はないと思われる。インフルエンザと同様に、水痘感染時にはアスピリンの内服によるライ症候群の危険性があるので、注意を要する。例年、冬季にかけて報告数は増加するが、本年第43週では例年に比べて報告数が多くなっている。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

近年、報告患者数は増加傾向にあるが、これには迅速診断キットの普及による影響もあると思われる。患者報告は毎年この時期から冬にかけて徐々に増加してくるが、本年は例年より早く報告数が増加しており、第43週では例年より報告数が多くなっている（図参照）。年齢群別では4～6歳の報告が多い。

図. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年別週別発生状況



（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センタ - 感染症情報室提供）

詳細は感染症情報センタ - のホ - ムペ - ジ

（<http://idsc.nih.gov/kanja/index-j.html>）の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県感染症情報

2003年第45週(平成15年11月3日～11月9日)

愛知県衛生研究所

		定点数																										
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病は除く。)	成人麻しん	
愛知県(名古屋市を含む)		191	182	35	51	13	0	0	22	221	775	256	55	46	123	1	0	9	2	95	0	23	1	1	5	0	0	
総数(名古屋市は除く)		121	112	24	37	12	0	0	19	150	551	202	52	29	103	1	0	7	2	84	0	19	1	1	5	0	0	
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1			3	71	224	54	3	17	20			2		11		4						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1				14	19	7	1	1	2			1		5								
海部	津島	7	7	2	2	1				2	108	3	1		3					7				1				
尾張中部	師勝	4	4	1	1				1	2	12	4		1	2													
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1			2	16	52	22	2	2	14				1	2		3						
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1			9	10	19	36	3	2	11			1		15		2						
	江南	6	6	1	2				1	18	86	11	3	1	7					1								
知多半島	半田	6	6	1	2	1				9	36	25	4	5	5					1						2		
	知多	7	7	2	2					13	14	3	8	1	8					8								
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1				12	5	17	7	5	14			1		7		1						
	衣浦東部	11	11	2	4	1			2	19	12	23	3	2	12	1			1	24		2						
	西尾	5	5	1	2	1				2	22	6	1	4	2			1		4								
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1			1	10	47	18	13	1	12			1		8		4						
	加茂	3	3		1					7	12	1	1															
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1			2	4	49	10	2		8			2		2		4	1		1			
	豊川	9	8	1	2	1			1	12	58	13	3	4	3							3			2			
東三河北部	新城	2	2			1						3																

(注)感染症法の一部改正によりRSウイルス感染症が追加、急性脳炎は五類全数把握対象疾患に変更されました。

愛知県感染症情報

2003年第1週～第45週(平成14年12月30日～平成15年11月9日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	く。鳥インフルエンザを除外	インフルエンザ(高病原性)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	(麻しん(成人麻しんを除く。))	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	(オウム病は除く。)	クラミジア肺炎	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																							
愛知県(名古屋を含む)	191	182	35	51	13	0	47,887	1,512	8,118	30,658	12,636	10,899	1,811	6,031	76	63	6,529	176	5,112	32	1,324	8	16	208	0	4		
総数(名古屋市は除く)	121	112	24	37	12	0	38,582	1,138	5,787	21,034	10,099	9,286	1,442	4,836	63	42	4,742	142	4,107	27	972	8	15	204	0	4		
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	9,305	374	2,331	9,624	2,537	1,613	369	1,195	13	21	1,787	34	1,005	5	352		1	4				
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2,755	78	916	1,318	455	194	46	275	7	2	496	13	450	1	41							
海部津島	津島	7	7	2	2	1	1,341	47	97	1,674	541	891	78	233	2		238	2	192	2	31		2	19				
尾張中部	師勝	4	4	1	1		1,378	14	143	1,220	189	186	23	110		5	393	1	167	1	20							
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1	2,712	47	415	2,655	869	839	142	547	7	1	354	5	257	1	151		1	1				
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	4,291	154	467	1,334	728	798	210	407	3	4	468	7	404	1	75	2	4	5		1		
	江南	6	6	1	2		1,522	69	370	2,000	600	763	107	350	3	1	210	1	139		48							
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1,915	19	218	798	268	165	67	260	1	1	159	2	225		18	1		16		2		
	知多	7	7	2	2		2,364	116	490	1,355	640	443	90	350	1	1	344	28	180	2	33							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1	4,159	35	375	282	976	605	174	578	12		366	1	604	3	90							
	衣浦東部	11	11	2	4	1	5,878	81	472	1,247	1,204	935	125	465	6	1	381	16	748		108		2	15				
	西尾	5	5	1	2	1	1,190	17	247	726	469	328	108	198	1	2	146	10	178		53		4	9		1		
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1	2,409	92	314	1,464	911	520	80	334	16	19	376	15	325	7	141		2	44				
	加茂	3	3		1		489	16	214	476	159	166	13	55	1	3	83		48									
東三河南部	豊橋市	8	8	2	4	1	3,088	236	646	2,737	889	1,184	96	379	1		373	25	51	7	100	5		46				
	豊川	9	8	1	2	1	2,839	117	401	1,748	1,140	1,219	83	272	2	2	353	13	113	2	63			49				
東三河北部	新城	2	2			1	252		2		61	50		23			2	3	26									

* 西尾保健所から42週の追加報告あり

愛知県感染症情報

2003年第1週～第45週(平成14年12月30日～平成15年11月9日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎*	クラミジア肺炎 (オウム病は除く。)	成人麻しん
計	0	38,582	1,138	5,787	21,034	10,099	9,286	1,442	4,836	63	42	4,742	142	4,107	27	972	8	15	204	0	4
～6ヶ月		518	7	15	259	268	73	9	405	11		72	2	2		6					
～12ヶ月		1,096	41	26	1,353	617	455	50	2,932	15	2	447	29	24		14					
0歳																	4		3		
1歳		3,227	173	140	3,168	1,822	1,691	79	1,388	14	5	1,176	34	193		29			18		
2歳		3,245	179	309	2,370	1,710	1,635	125	86	3	2	910	10	330	1	26			17		
3歳		3,321	177	698	2,320	1,885	1,768	162	12	4	1	831	7	623	2	32			20		
4歳		3,516	170	1,089	2,082	1,753	1,541	226	1	4	3	565	8	817		31			18		
5歳		2,262	140	1,123	1,628	1,065	1,017	232	2	2	6	384	6	798	1	33					
6歳		1,825	84	835	1,199	442	475	197	4		1	151	7	482		13					
7歳		1,466	53	497	938	182	213	110	1	2	4	72	5	283		12					
8歳		1,304	40	328	744	120	139	103	3	2	3	32	4	190	1	14					
9歳		1,336	20	192	581	66	67	46			1	36	2	102		8					
5歳～9歳																		3	46		
10歳～14歳		4,860	23	265	1,389	106	96	71	2	2	3	28	17	168	1	38			29		
15歳～19歳		1,574	3	23	416	10	9	1				8	3	15		31		2	5		
20歳～			28	247	2,587	53	107	31		4	11	30	8	80			4				
20歳～29歳		2,768													10	160		3	14		2
30歳～39歳		3,054													2	205		5	18		1
40歳～49歳		1,182													2	94		2	5		1
50歳～59歳		892													3	110			3		
60歳～69歳		597													1	62			2		
70歳～															3	54					
70歳～79歳		352																	5		
80歳以上		187																	1		

* 西尾保健所から42週の追加報告あり